



第1学年 「比例と反比例」 岡村 佳 教諭

「比例と反比例」の導入の場面の提案でした。具体的な事象の中の2つの数量の関係について変化や対応の特徴を調べることを通して、数量の関係を「関数」という概念で捉え直すことをねらいました。また、単元の指導にあたり、単元全体を通して、表、式、グラフを関連付けて考察することを重視した授業づくりを目指しました。

「事象の中から伴って変わる二つの数量を生徒自身に見いださせる必要があるのではないか」、「何を  $x$  とし、何を  $y$  とするかを明確にし、一方の変数のとる値を決めれば、それに対応する他の変数の値が決まることを捉えさせる必要があるのではないか」といった協議が行われました。



小学校からの学びをつなぐ!

①小学校算数科での学びと中学校数学科での学びの違いを明らかにし、小学校での学びを基に中学校の学びとしていくこと、②表、式、グラフと具体的な場面を結び付けながら、どのような関数であるかということ根拠を明らかにしながら数学的な表現を用いて説明していくこと、③そのうえで、いくつかの具体的な事象について関数として統合的にみることができるようになることが必要である。

齊藤一弥学力向上総括専門官による  
指導板書



授業者の声

今回は単元の導入で「関数関係の意味について理解する場面」の提案でした。新たな視点を教えていただき、まだまだ改善すべき点がたくさんあることに気がきました。高等学校で学ぶ関数について見通しがなかったこと、関数の意味の解釈も不十分であると感じたので、今後の教材研究に生かしていきたいです。

参会者の声

関数関係の意味を理解させることの指導について、授業のイメージをもつことができました。今日の学びを教科会に持ち帰り、これまで以上に、小・中・高のつながりをより意識した授業づくりをしていきたいです。【伊野中 近藤佳奈教諭】

次回、授業研究会は、10月15日(月)です。ともに学びましょう。ぜひご参加ください!

